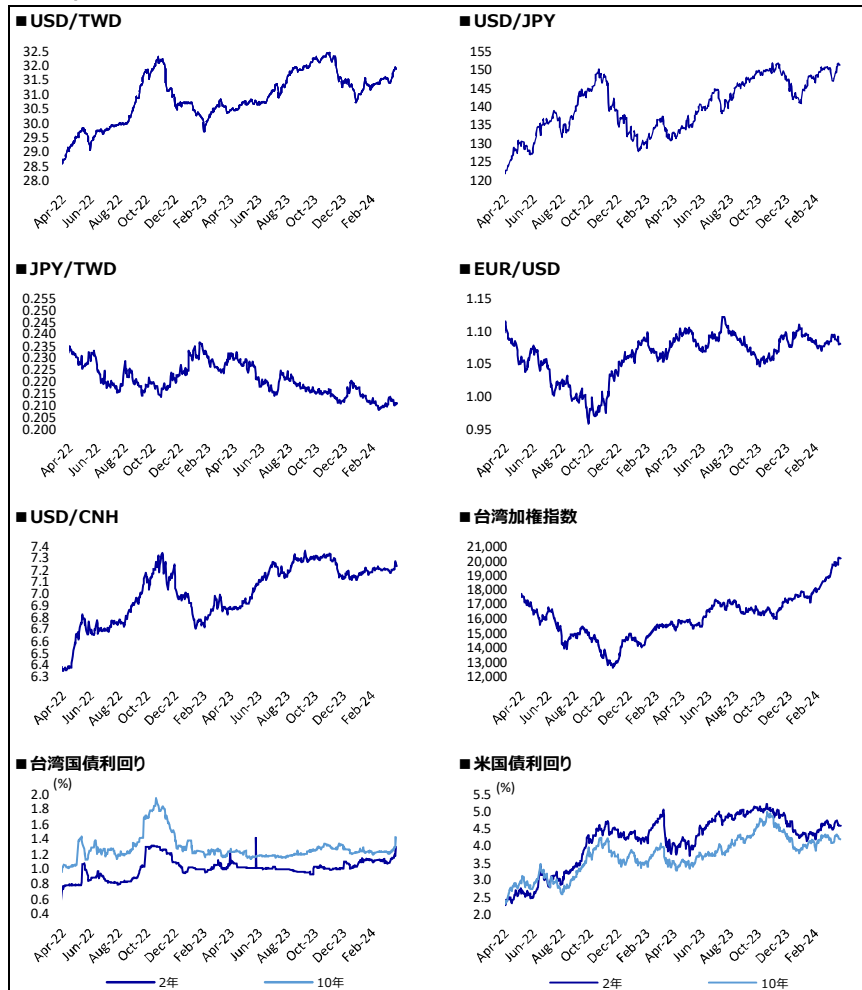


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初3/18は31.620でオープン後、海外への投資資金送金が見られていた他、FOMCを控える中、米金利が上昇していたことを背景にドル買いが進み、31.60台後半まで上昇。3/19はFOMCにおける米政策金利見通し引き上げへの警戒感の高まりから、リスクセンチメントが悪化し、台湾ドル売りが優勢となり31.80台まで上昇。3/20は外国人投資家による台湾株売り、海外債券投資資金送金が大きく見られたことでドル買いが加速し、31.80台後半まで上昇。3/21は前日海外時間のFOMCにおいて利下げ見通しが維持されたことでハト派な内容と捉えられ、ドル売りが優勢となり31.80近辺まで下落。3/22は中国での利下げ観測が高まる中、急速に人民元安が進んでいたことを背景にアジア通貨安が進行。前日引け後に台湾中銀による予想外の利上げがあったものの、台湾ドル売りが優勢な展開となり、一時31.977まで上昇した。最終的には前週比1.2%ドル高台湾ドル安の31.958で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は363.8億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初3/18は149.02でオープン後、週中に日米中銀会合を控え、様子見姿勢が強く149円台前半で揉み合いの推移。3/19は日銀金融政策決定会合において マイナス金利撤廃とYCC上限目途撤廃が発表されたが、植田総裁より「次回以降の利上げについては経済状況次第である」との発言が聞かれると、利上げ継続への期待感が剥落。円売りが優勢な展開となり150円台前半まで上昇した。3/20はFOMCを控えて米金利が高止まりする中、ドル買いが進み151円台後半まで上昇。その後FOMCにおいて利下げ見通しが維持されると、ドル売りが優勢な展開となり151円近辺まで下落。3/21は、東京時間に米金利が低下していたことを受けてドル売りが進み、150円台前半まで下落。しかしその後、米景況感指標が強い内容となったことを受けて米金利が上昇する中、ドルが買い戻され151円台前半まで上昇。3/22は、寄り付き後一時151.86まで上昇したが、日2月CPIが前回対比強い結果となったことを背景に円買いが優勢となり151円台前半まで下落した。最終的には前週比1.6%ドル高円安の151.49で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.600-31.900
今週は上値の重い推移を見込む。台湾における予想外の利上げや、月末の輸出業者による外貨売りフローなどを背景に、台湾ドルが買われやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：149.00-152.00
今週は上値の重い推移を見込む。今週控えるインフレ指標が堅調なものとなった場合、日本における追加利上げ期待が高まる他、財務省からの口先介入が警戒される中、円は売られづらいであろう。

今週の予定

3/18 (MON)	台湾2月鉱工業生産
3/19 (TUE)	日2月サービス業PPI、米2月耐久財受注、米3月カンファレンスボード消費者信頼感指数
3/20 (WED)	
3/21 (THU)	米第4四半期GDP確報値、米3月ミシガン大消費者信頼感指数
3/22 (FRI)	日3月東京都都区CPI、日2月失業率、米2月PCE

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。